

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川赤十字病院医学雑誌 (1998.04) 12巻:105～108.

喉頭多形腺腫の1例

大島収、柳内統、中根東、藤田豪紀、内田祥子、安藤政克、熊井恵美

喉頭多形腺腫の1例

大島 収^{*1} 柳内 統^{*1} 中根 東^{*1}
藤田 豪紀^{*1} 内田 祥子^{*1} 安藤 政克^{*2}
熊井 恵美^{*3}

Key Words : pleomorphic adenoma, larynx, laryngomicroscope

多形腺腫は、耳鼻咽喉科領域では唾液腺領域に発生することが多く、その他の部位に発生することは非常に稀である。

今回我々は、披裂間ヒダより発生し、喉頭前庭を占拠していた多形腺腫症例を経験したので報告する。

症例：52歳，男性。

主訴：喉頭痛

家族歴，既往歴：20年前全身麻酔下に胆嚢摘出術。

現病歴：平成5年3月喉頭痛を主訴に近医耳鼻咽喉科を受診。関節喉頭鏡検査にて、喉頭前庭を占拠する腫瘍を認めたため、当院に即日紹介となった。呼吸困難感なく、嗄声は以前より軽度見られていたが放置していた。

初診時喉頭所見（図1）：表面平滑で粘膜に

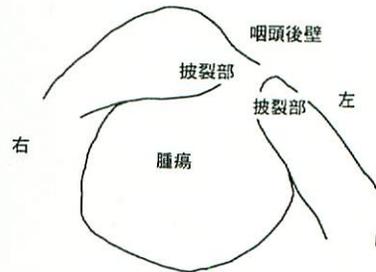
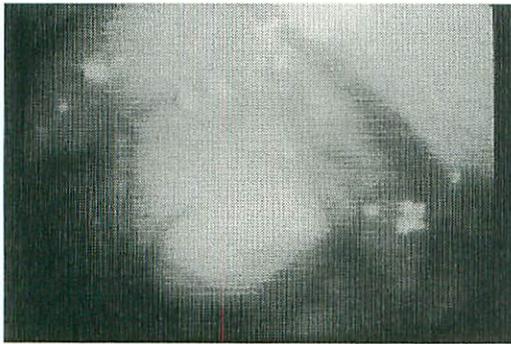


図1 喉頭内視鏡所見 喉頭前庭を占拠する病変が認められる

^{*1}旭川赤十字病院耳鼻咽喉科 ^{*2}旭川赤十字病院病理 ^{*3}耳鼻咽喉科くまいクリニック

PLEOMORPHIC ADENOMA OF LARYNX : A CASE REPORT

Osamu OSHIMA^{*1}, Osamu YANAI^{*1}, Tsukasa NAKANE^{*1}, Taketoshi FUJITA^{*1}, Shoko UCHIDA^{*1}
Masakatsu ANDO^{*2}, Megumi KUMAI^{*3}

^{*1} Department of Otorhinolaryngology, Japanese Red Cross Asahikawa Hospital

^{*2} Department of Pathology, Japanese Red Cross Asahikawa Hospital

^{*3} Kumai Clinic of Otorhinolaryngology

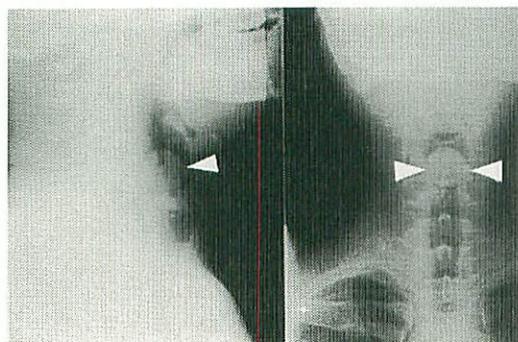


図2 喉頭単純X線像（正面・側面）

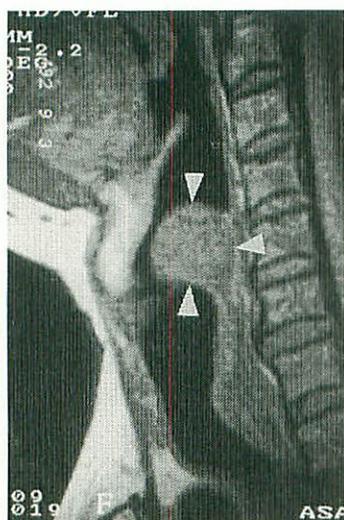


図3 頸部MRIT1強調画像矢状断
腫瘍は低から中信号に描出されている

覆われた腫瘍を認めた。声帯は前交連付近が一部観察された。両側被裂部の可能性は良好で、下喉頭にも特に所見は認められなかった。喉頭内視鏡にて声帯、声門下に以上がないことを確認、腫瘍は被裂部の間に茎を持ち、声門上部より発生したものと考えられた。

検査所見：喉頭X線撮影写真（図2）で腫瘍は声門上部にのみ認められた。また石灰化等の所見は認められなかった。血液、尿、胸部X線等に異常は認めなかった。

MRIT1強調画像矢状断像にて腫瘍は、低から軽度中信号に描出された（図3）、T2画像で

も低信号を示した。

経過：間接喉頭鏡所見や喉頭内視鏡所見より喉頭の充実性腫瘍と考え、平成5年3月16日全身麻酔で喉頭顕微鏡下に生検を兼ね、腫瘍の摘出術を施行した。

腫瘍を茎部と思われる披裂間ヒダより切断し、被裂部を傷つけないように一塊にして摘出した。

病理組織所見：摘出腫瘍は、弾性硬、大きさ25mm×20mm×15mmの充実性腫瘍で被膜を有し剖面は黄白色を呈していた（図4）。病理組織は、上皮成分と間質成分より成り立ち、被膜外浸潤および悪性所見は認めず、良性の多形腺腫と診断された（図5）。

術後経過：術後約4年経過するが、再発は認めていない。

考察：喉頭の良性腫瘍は、乳頭腫がもっとも多く、その他のものは稀とされている¹⁾²⁾。また、耳鼻咽喉科領域における多形腺腫の発生母地は、唾液腺領域に発生することがほとんど

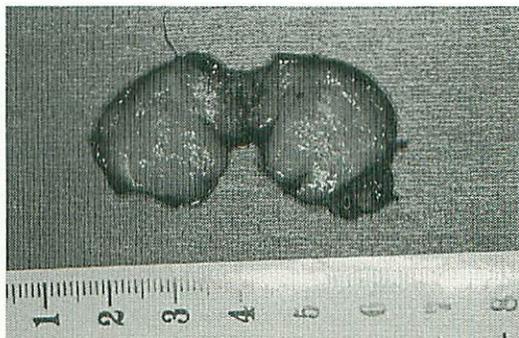


図4 摘出腫瘍標本

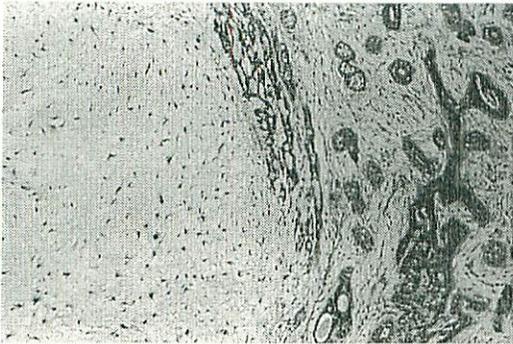
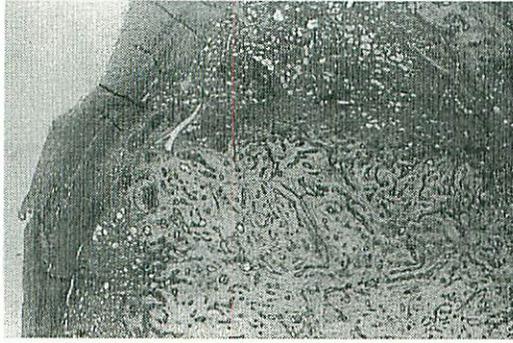


図5 病理組織所見
 上段（弱拡大）：腫瘍被膜は保たれており、被膜外浸潤を認めない
 下段（中拡大）：上皮成分と間質成分よりなる腫瘍で、悪性所見は認めない

で、その他の部位は稀とされ、副島ら³⁾、八田ら⁴⁾の報告では、大唾液腺発生例がほぼ9割を占めている。その他文献的に見ても喉頭に発生した多形腺腫症例は、喉頭腫瘍の中でも、また多形腺腫の発生母地としても極めて稀であり、本邦の多形腺腫症例は本症例を含め、両性12例^{4)~14)}悪性2例¹⁵⁾¹⁶⁾であった（表1）。

喉頭における多形腺腫の発生母地について、Sabriら¹⁷⁾は粘膜固有層の粘液腺起源であるとしており、またBatsaxis¹⁸⁾は声門下発生例が多いとしている。国外においては気管気管支より発生した多形腺腫の報告が認められるためと思われる。しかし、本邦においては、文献上本症例を含めた14例中声門上部発生が9例、声門部が3例、声門下が2例と声門上発生例が多いようである。

多形腺腫の特徴として、良性腫瘍とされながらも再発や悪性化の可能性が高く、いわゆる「潜在的悪性腫瘍」と言われ、その摘出には被膜周囲の娘結節を残さないような十分な配慮が必要となる。また、多形腺腫の病理組織は多彩であり、小さな標本での診断には限界があり、過去の報告例でも診断に苦慮した例¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁹⁾²⁰⁾がみられる。

表1 本邦における喉頭多形腺腫症例

	発表者	年代	年齢	性	発生部位	症状	大きさ (cm)	摘出方法
良性	塘	1960	48	女	声帯	呼吸困難	不明	喉頭直達鏡下摘出
	明海	1980	62	女	声帯	嗄声	1.2×0.8×0.7	喉頭截開摘出
	大久保	1981	51	男	喉頭蓋	異物感	1.3×1.3×1.2	経口的喉頭蓋切除
	若林	1983	62	男	声帯	嗄声	不明	喉頭直達鏡下摘出
	栗田	1984	59	男	披裂部	異物感	不明	咽頭切開摘出
	小川	1988	17	男	喉頭蓋	異物感	不明	咽頭切開摘出
	寺蘭	1990	71	女	喉頭蓋	嚥下痛	1.5×1.5	咽頭直達鏡下摘出
	守田	1990	73	男	喉頭蓋	異物感	2.2×2.5	咽頭切開摘出
	長島	1991	52	男	喉頭蓋	嗄声	4.5×3.0	咽頭切開摘出
	太田	1992	46	男	喉頭蓋	嗄声	5.0×4.0×3.0	咽頭切開摘出
	八田	1993	33	女	声門下	呼吸困難	1.5×1.5×1.5	喉頭截開摘出
	本症例	1993	52	男	被裂間ヒダ	咽頭痛	2.5×2.0×1.5	喉頭直達鏡下摘出
悪性	松井	1982	34	女	声門下	嗄声	2.2×1.5	喉頭全摘出
	斉田	1990	51	男	喉頭蓋	嗄声	7.0×6.0×4.0	喉頭水平部分切除

今回当院にて本症例の治療にあたり術前検討で(1)局所所見より乳頭腫は考え難く、組織によっては組織材料が不足するため確定診断が得られにくい可能性もあったため、初回手術で出きるかぎり腫瘍を摘出する必要があった(2)過大な手術がその後のQOLに及ぼす可能性を考慮し、喉頭直達鏡下に腫瘍を摘出することに決定し、施行した。

手術後の詳細な病理結果により、腫瘍被膜は完全に保たれており、病理学的にも完全摘出と診断されたため、文献上多く施行されている喉頭切開や喉頭截開による摘出術は追加しなかった。

しかし今後も喉頭のみでなく気管気管支も含めて注意深く経過観察を行なうことが必要であると考えられた。

結 語

52歳男性に喉頭被裂間ヒダに発生した極めて稀な多形腺腫症例を経験したので報告した。

本論文の要旨は、第168回北海道地方部会(旭川市)、第6回喉頭科学会(佐賀県)にて講演した。

文 献

- 1) 齊藤成司：喉頭の良性腫瘍49：857～864，1997
- 2) 川井田政弘，他：喉頭領域の良性腫瘍 JOHNS9：1733～1739，1993
- 3) 副島邦彦，他：耳鼻咽喉科領域における多形腺腫：耳鼻展28：375～382，1985
- 4) 八田千広，他：声門下多形腺腫例，耳鼻臨床87：1115～1119，1994
- 5) 塘 晋，他：喉頭腺腫の一例，久留米医学会誌23：3012～3015，1960
- 6) 明海国賢，塚本 敦：喉頭に発生した pleomorphic adenoma の一例，日気食会報31：174～175，1980
- 7) 大久保泰，他：喉頭蓋に発生した多形腺腫の一症例，耳鼻27：680～684，1981
- 8) 若林淳一，他：声帯多形腺腫の1症例，耳喉55：469～472，1983
- 9) 栗田茂二郎，他：稀な喉頭腫瘍の2症例，日耳鼻87：508，1984
- 10) 小川和昭，他：喉頭蓋谷に発生した多形腺腫の2治療例，頭頸部腫瘍10：134，1984
- 11) 守田雅弘，他：喉頭蓋に発生したまれな多形性腺腫の1症例，日耳鼻93：666，1990
- 12) 寺藺富朗，他：喉頭蓋に発生した多形腺腫例，耳鼻臨床84：203～207，1991
- 13) 長島泰行，他：喉頭蓋多形腺腫一例，耳鼻臨床補50：65，1991
- 14) 太田 康，他：喉頭蓋多形腺腫例，耳鼻臨床88：1067～1071，1995
- 15) 松井克明，他：喉頭に発生した稀有な悪性多形腺腫(malignant pleomorphic adenoma)の1例について，耳鼻28：454～457，1982
- 16) 斉田晴仁，他：喉頭の悪性多形腺腫の1症例，耳鼻展33：249～254，1990
- 17) Sabri JA and Hajjar AM：Malignant mixed tumor of the vocal cord. Arch Otolaryngol Head Neck Surg 85：322～324，1977
- 18) Batsakis JG：Neoplasms of the minor and "Lesser" major salivary gland. Tumor of the Head and Neck. pp86～90. Williams and Wilkins, Baltimore. 1979
- 19) Jokinen et al：Laryngeal pleomorphic adenoma. J Laryngol Otol 88：1131～1134，1974
- 20) MacMillan III RH and Fechner RE：Pleomorphic adenoma of the larynx. Arch pathol Lab Med 110：245～247，1986